

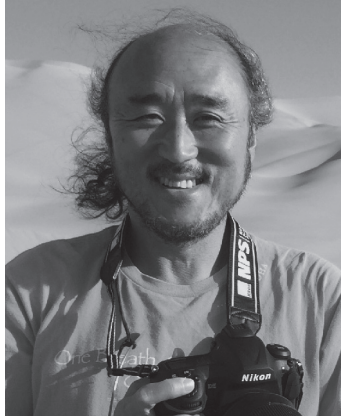
# 特別講演 I

1日目 10月23日(月) 15:15～16:15  
第1会場(仙台国際センター 会議棟 2階 大ホール)

## 夜の虹との出会い

自然写真家 高砂 淳二

## 夜の虹との出会い



自然写真家

たかさご じゅんじ  
高砂 淳二

### 【略歴】

写真家。1962年、宮城県石巻市生まれ。

ダイビング専門誌の専属カメラマンを経て1989年に独立。

世界中の国々を訪れ、海の中から生き物、虹、風景、星空まで、地球全体をフィールドに撮影活動を行っている。2017年8月出版の「Light on Life」をはじめ、「Dear Earth」「night rainbow ～祝福の虹」「ASTRA」「夜の虹の向こうへ」、「Children of the Rainbow」、「虹の星」、「free」、「BLUE」、「life」「PENGUIN ISLAND」「そら色の夢」「南の夢の海へ」、「ハワイの50の宝物」、「クジラの見る夢 ～ジャックマイヨールとの海の日々～」など著書多数。

ザルツブルグ博物館、東京ミッドタウンフジフィルムスクエア、渋谷パルコ、阪急百貨店、大阪大丸百貨店、ニコン The Gallery、コニカミノルタプラザなど、写真展多数開催。

\* 海の環境 NPO 法人 “OWS (Oceanic wildlife society)” 理事

石巻の渡波という漁師町で生まれ育ったこともあり、海が好きで、大学生のころから海に潜って写真を撮影するようになりました。大学卒業後、好きが高じて職業となり、1986年から、ダイビング専門誌専属のカメラマンとなり、世界の海に潜って写真を撮るようになりました。3年後の1989年に独立し、これまで90か国以上の国を訪れ、海の中だけでなく自然全体を撮影するようになって今日に至ります。

長くやってきた写真家生活の中で、僕にとって特に大きな出会いだったのが“ハワイ”でした。リゾートとしてのハワイは有名ですが、ハワイはもともと先住ハワイアンたちが暮らしてきた土地で、今でも彼らは、取り込まれたアメリカに翻弄されながらも、ハワイの島々に根差し、暮らしています。

2000年の夏、家族を連れてハワイに長期撮影に行きました。そこであるハワイ先住民に出会いました。先住ハワイアンたちは、古来自然とともに、自然を大事にして暮らしてきた人たちです。自然と調和をはかり、人間同士で調和をはかって暮らす智恵を今でも大切に守り続けています。彼は僕にその智恵の一端を話してくれたのですが、それがあまりにも興味深いので、すぐさま弟子入りし、毎日彼のもとへ通い始めました。彼は薬草の使い方やマッサージ法、心が体に及ぼす影響、そして自然と人間の関係などを話してくれました。そしてある時、ハワイで最高の祝福と言われるという“夜の虹”のことを話してくれました。

その話を聞いた直後に、僕はその“夜の虹”を偶然見ることになりました。不思議な話を毎日聞いていた真ただ中で、そんな出会いを経験してしまったものですから、その後、夢中で先住ハワイアンに伝わる智恵を勉強するようになりました。ここ何年か日本でも知られるようになってきた“ホオポノポノ”なども、ハワイの大きな智恵の一つです（ただし原型からはちょっとずれてしまっていますが）。

ハワイの智恵と出合ってから、撮影の時にはその智恵に照らし合わせて自然に向き合うようにしました。そうすることで、動物との距離はもとより、自然自体との関係性も以前よりも近く、親密になっていきました。

講演では、そんなハワイや、夜の虹との出会い、そしてハワイアンに伝わる智恵などをお話し、またそんな風にして世界各地で撮影してきた作品のスライドショーも上映し、ご覧いただこうと思っています。